

よりそう

Side by Side



地球の裏側からのメッセージ

～杉本昭恵さん



9月上旬にJICAのシルバーボランティアとしていらした杉本昭恵さん、震災当時は南米のボリビア、サンファンという街で活動していらっしゃいました。震災の報、大津波の映像には身の裂かれる思いだったそうです。

そんな中で考えついたことが、サンファンに住む日本人の方に横断幕にメッセージを頂くという事でした。個人的な考えを一方的に押し付けてお願いはできないと恐る恐る現地の方々をお願いしてみた所、みなさん二つ返事で書いてくださったそうです。

最終的に集まったメッセージは120余り。決して高価ではない布に書かれた現地の方々の熱意、激励、メッセージを頂く中、杉本さんはよくこんなことを聞かれたそうです。「お金じゃなくて良いの?」「もっと形(現物)にして渡した方が役に立つんじゃないの?」「しかしその都度「形はお金ではなく気持ち、これも立派なボランティアなんです。」、と答えられているそうです。遠く離れたボリビアからでも必ず気持ちは伝わるんだ、という事。

お話の最中、しきりにおっしゃっていた言葉がとても印象的でした。「私たちは、日本が必ず立ち直る、絶対に諦めないという事を信じる。』と。

お話を聞くうちに杉本さんが兵庫県出身で、95年に起きた阪神淡路大震災も経験されていることが分かりました。被災当時は病院で看護師をされていたこともあり、震災後は避難所や仮設を見回り看護を続けられたとのこと。

そんな中、特に見られたのが避難所で足腰を弱める年配の方と家族を亡くれば自分ひとりだけが残ったご老人の仮設住宅などでの孤独死だったといえます。避難所は人がごった返し、足を延ばすスペースもなく、またその場を離れてしまふ場所を取られてしまつたため、同じ場所と同じ姿勢のまま長時間座り続けなければならないので、足腰を痛めてしまふようです。

そして今回の震災でも同様の事案が起こる可能性がある心配されています。近所に知り合いがいらないため出不精にな

り、狭い仮設の中で一日中家にいるご年配の方が多く、そのような方達の住宅を訪ねたところ、堰をきったように話し続けられたそうです。そんな状況の中で杉本さんは「もっと家から出ましょう」「外に出て人と話しましょう」と言います。近所の方と顔を合わせることで安否確認ができ、孤独死を大幅に減らせる、集会所で人と会うことを楽しみにしてほしい。

杉本さんはその後台風被害の大きかった和歌山県へ行かれたそうです。お話しされる杉本さんの笑顔はとでもハツツツとしてエネルギーでした。(聞き手:編集:延藤、吉田、富岡)

<投稿より>

白澤ガールズの「まごころの郷」 別府史生さん

大垣町佐野屋球場仮設には常設のカフェ「まごころの郷」があります。8月20日にオープンして約一月、ブルーシートの日よけに質素なテーブルとイスだけ、というカフェですが、看板娘の通称「白澤ガールズ」の活躍で笑顔の絶えない交流の場となっています。

「白澤ガールズ」とは地元のチャーミングなボランティアさん達のこと。自らも震災の被害者にあっていますが毎日カフェのお手伝いをしてれています。

今はリツさん、ユキさん、ナオさんの三人の看板娘が元気いっしょにカフェを切り盛りしています。仮設住宅の人がぶらりと立ち寄って気軽に茶飲み話をし、仲間が集まってシシユ作りに熱中する、そしてカフェの傍ら野菜を育て収穫を楽しむ、休日には子どもたちの声がひびく、そんな「まごころの郷」は被災者の方々から主役になって自らのものとし地域を盛り上げていく魅力がいっぱいのカフェなのです。

それを遠野まごころネットのボランティアが黒子のように支えることで、地域交流の場としてもっともっと発展していけばよいと願っています。

遠野
まごころネット
日記



☆数日前から遠野まごころネットの玄関

前に「コロのえ」と書かれた立派な段ボールハウスができ、そして猫が時々玄関で迎えていることをみなさんお気づきのことと思います。迷いネコの通称コロちゃんには優美な座り姿と人懐っこさで日々活動から帰ってくるみんなを毎日癒してくれています。ボランティアの朝ごはんを失敬したりとたまにイタズラするのが玉にキズ、ですが現在里親募集中で、決まったらここから旅立つこととなります。それまでの間、猫好きな方はいっしょにコロちゃんと遊んであげてくださいね!